

令和元年度 ショートステイ目標に対する反省

- ① 利用者・家族からの要望や家庭の環境等を職員間で伝達・共有し、統一したケアを行うことで安心して利用できるショートステイを目指す。

- ・家族からの報告書に記載されていたことや家庭での様子を把握できていないことがあった。貴重な情報を大切に共有する必要がある。ただ、伝達ノートに記載できていた分については情報共有できており、口頭でも伝達することで活用もできていた。

- ・家族と接する機会は少なかったが、面会時に家庭での生活の様子や環境を尋ねることで情報を得ることができた。また、苑での生活の様子も伝えることで互いに情報共有できた。加えて、送迎の際に同乗し実際に家庭環境の把握もすることができた。

- ② 日々の生活の中で利用者の ADL 維持に努め、1 日でも長く在宅生活を送れるよう機能訓練の充実に努める。

- ・自身でできることについてはできるだけして頂くよう努めたが、つい職員の都合にて手を出してしまうことがあった。今後も 1 人 1 人の状態を把握して ADL の維持に努めたい。

- ③ 接遇面を 1 人 1 人がしっかりと磨き現場に笑顔を絶やさず、利用者に「また来たい」と言って頂けるような安心して楽しく過ごせるショートステイを目指す。

- ・言葉遣いや利用者との距離が近すぎる場面があった。

- ・職員が楽しく笑顔でいることがショートステイでの雰囲気作りに影響があり、皆で意識できていた。

- ・最低限の業務と特養への協力体制により、職員の人数が確保できず、ふれあいあいができなかった。